

Wave

JCHOだより

うえーぶ



独立行政法人 地域医療機能推進機構

東京高輪病院

2025.8
vol.91

Contents

ご挨拶

教えてドクター！

診療科紹介～循環器内科～

連携医療機関のご紹介



暑い日が続きます

今年のセミはどこに行った？

ここ数年の気候は昔と比べると四季がはっきりせず、今年は梅雨入り後も梅雨らしい天気ではなく、梅雨明けする前に夏になってしまったような感じでした。私は整形外科を主に担当しておりますが、印象としては、例えば下半期になると寒さとともに転倒することによる高齢者の外傷が増え、上半期はスポーツ活動などに伴う外傷が多い等という漠然とした季節や時期に伴った傾向が有った様に思います。しかしながら、ここ近年はそのような傾向が薄れつつあるような印象があります。これには様々な要因があるとは思いますが、診療の中でも季節感がなくなって来ているような(あくまでも個人の感想です)気がしています。また、特定の骨折が数件立て続けにという事が年間に数回起こります。腕相撲による若年男性の上腕骨幹部骨折(これは元々忘年会シーズンに多いという印象があるのですが)この時期にまた？と言うように。もしかして巷では腕相撲が流行っているのかと思わせることもありました。

医療連携・患者支援センターに限らず各診療科で地域の医療機関への訪問活動を行っております。診療科毎のリーフレットを作成し、最新の情報を届けるべく継続させていただいております。当院にとって医療連携の充実は非常に重要な要素の一つです。地域の皆様のお役に立てることが東京高輪病院の使命だと思っております。また血管造影装置の更新が完了し、最新の機器を用いた検査が可能になりました。

ところで今年は暑くなくてもセミの鳴き声があまり聞こえない気がします。夏の風物詩ではありますが暑さを増す存在と思っておりましたが、聞こえないのも少し寂しい気がします。これも気候変動の影響なののでしょうか。これがお手元に届く頃はまだまだ暑い日が続いていると思います。どうぞ御自愛くださいますようお願い申し上げます。セミは鳴いていますか？

しら と たか し

副院長 白土 貴史



着任のご挨拶

～薬剤部一丸となって頑張ります！～

令和7年4月よりうつのみや病院より異動してまいりました薬剤部長の田子加代子です。JCHOとしては、群馬中央病院(旧社会保険群馬中央総合病院)出身で、その後、さいたま北部医療センター、うつのみや病院でも部門長として勤務していました。

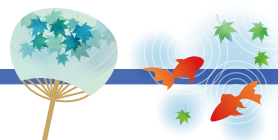
それぞれ規模は違いますが、各病院での経験を活かして薬剤師業務の見直し・効率化を図りつつ、職場環境の整備もしていきたいと思っています。

薬剤部は、昨年度より薬剤師の人員が不足する中、医師・看護師はじめ職員の皆様、JCHO他施設の薬剤師の先生方には、多大なるご尽力をいただき、ありがとうございます。

東京高輪病院も地域に密着した病院であり、チーム医療の一員として多職種と連携し、病院の目標でもある「安全で質の高い医療の提供・安心して暮らせる地域づくりに貢献」できるような薬剤部を目指し、また地域の医療機関やJCHO病院、調剤薬局の薬剤師の先生方とも連携し、日々努力していく所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

た ご か よ こ

薬剤部長 田子 加代子





腎臓内科

腎生検について

～実際はどんな時にする検査なのか？～

腎生検とは、その名の通り腎臓の組織の一部を採取して、顕微鏡で詳しく調べる検査です。腎疾患の確定診断には必須の重要な検査であり、日本では年間4000-4500件程度行われています。腎生検を行う場面は主に下記の3つです。

- ・ 持続する血尿や蛋白尿
- ・ ネフローゼ症候群
- ・ 原因のはっきりしない急性腎障害

確定診断か臨床診断かは治療方針を決める上で大きな違いがあり、腎生検の結果は治療方針を決定するのに大きな助けになります。ただ、腎生検は100%安全な検査ではありません。日本国内や欧米の大規模報告では0.3-1%の症例で輸血が必要な出血の合併症が起こっています。どんな医療行為もそうですが、メリット>デメリットであることが重要です。上記3つのような状況であっても患者さまの背景なども含めて総合的に考えて、施行するか回避するかを決定しています。

実臨床で腎生検が特に有用であるのは、ネフローゼ症候群です。ネフローゼ症候群を引き起こす代表的な腎疾患は微小変化型ネフローゼ、膜性腎症、巣状糸球体硬化症、アミロイドーシス、糖尿病腎症などが挙げられますが、これらは治療方針も腎予後も大きく異なりますので病型を確定させることは極めて重要になります。

また、健診の尿検査異常で来院された患者さんに腎生検を行い、IgA腎症が発見されることがしばしばあります。IgA腎症はネフローゼレベルの蛋白尿はみられませんが、顕微鏡のもしくは肉眼的な血尿がみられることが特徴です。約20～40%が慢性腎不全・末期腎不全に進行するとされていますが、扁桃腺摘出+ステロイドパルス療法を行うことで進行を抑制することができます。

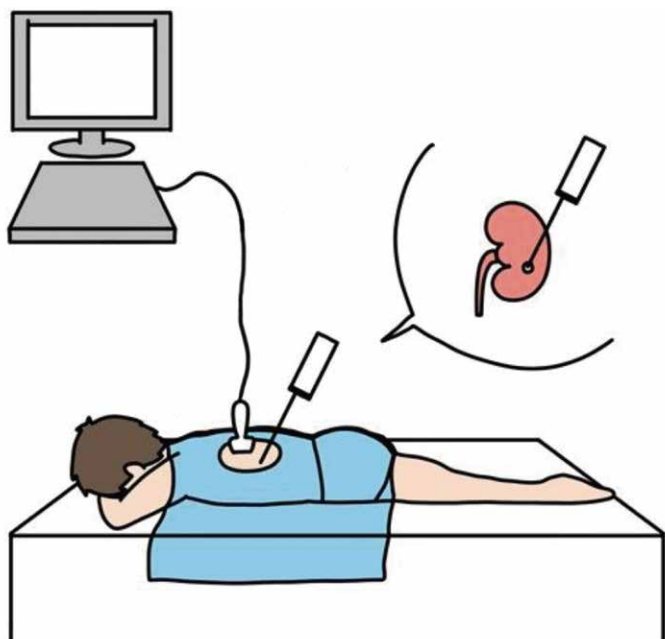
地域の先生がたにおかれましては、尿蛋白や尿潜血がみられた場合やネフローゼ症候群を思わせるような全身浮腫の患者さまがおられましたら、是非、東京高輪病院の腎臓内科までご紹介ください。よろしくお願いいたします。

腎臓内科

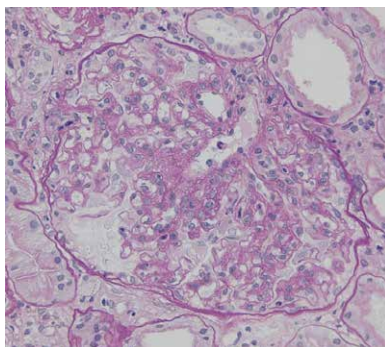
しき だ やす と
式田 康人



腎生検の手法

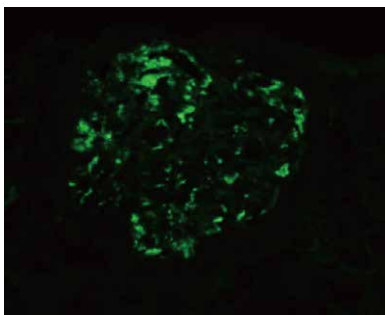


腎生検で診断されたIgA腎症の標本



PAS染色

メサンギウム細胞が増殖し、メサンギウム基質の増生もみられる



蛍光抗体法

メサンギウム領域にIgAが顆粒状に沈着している



診療科紹介

循環器内科

相談しやすい循環器内科です

さとう まなぶ
循環器内科 佐藤 学

当院循環器内科では、医師全員が循環器専門医資格を有し、狭心症や心筋梗塞、閉塞性動脈硬化症、不整脈（心房細動や房室ブロックなど）、うっ血性心不全、弁膜症など幅広い循環器疾患に対応しています。

2025年6月30日より心血管カテーテル室の血管撮影装置をリニューアルし、シングルプレーン（1方向透視）とバイプレーン（2方向同時透視）の両システムに対応しました。この撮影装置により狭心症・心筋梗塞や下肢閉塞性動脈硬化症における複雑な治療を、より短時間で安全に行うことが可能となりました。心血管インターベンション治療に加えて、不整脈治療においてもペースメーカー植込み術やカテーテルアブレーションはもちろん、リードレスペースメーカーをはじめとした最新の治療にも対応しています。

高齢化により心不全の方が増え続ける中で、心不全管理においても多職種が連携した適切な治療を提供しております。心臓リハビリテーションの充実と、外来での心肺運動負荷試験を取り入れることで、病態の多様化に応じた適切な治療介入を実現しています。

今後も近隣のかかりつけ医の先生方との連携にもより一層力を入れ、入院から退院、そしてその後の生活までを一貫して支える体制を整えていきたいと考えております。

心疾患が疑われる方はもちろん、呼吸苦や胸部症状のある方・動脈硬化のリスクが高い方・BNP高値や心電図異常など検査所見の解釈に迷うケース等ございましたら、当院循環器内科までご相談ください。

循環器疾患は症状の訴えや症候が多岐にわたるため、紹介基準にお悩みの場合も多いかと存じますが、どうぞお気軽にご連絡ください。



連携医療機関のご紹介

25 上竹医院

うえ たけ しん いち ろう
院長 上竹 慎一郎

かかりつけ医の役割を担って

地域に根ざして40年以上

当院は五反田駅より徒歩 7 分、東京高輪病院からも徒歩圏内の場所にあります。

1980 年に父がこの地で開院し、2017 年より父の後を私が引き継ぎ院長に就任しました。

そして 2025 年 6 月に前医院からほど近い場所に移転、リニューアルオープンいたしました。

大学病院では消化器・肝臓内科を専門としていましたが、現在は専門分野のみならず内科全般を、またお子様から高齢の患者様まで幅広く診療をしています。



当院では対応しきれない患者様がいらした時に東京高輪病院の先生方、スタッフの皆様にはいつも快く受け入れていただき大変感謝しております。

高齢化社会となり近年は当院に通院されている患者様も急に体調を崩したり、今までと同じようにご自宅で生活が続けることが難しくなった方など、ご家族から相談を受けることが多くなりました。地域の基幹病院である東京高輪病院のスタッフ皆様とより一層連携を深めることが大切と考えております。今後も地域のかかりつけ医としての役割を果たすべく努めてまいります。

東京都品川区東五反田 3-20-17 佐藤ビル 2 階
TEL.03-3447-0703
<https://www.uetake-clinic.com/>



26 高輪みつるクリニック

たか はし みつる
院長 高橋 充

病診連携あってこそそのクリニック

とりあえず受診ができるクリニックを目指して

当院は泉岳寺駅から徒歩 1 分にあるクリニックです。

これまで救急外来や救命救急センターに長く勤務していたことを生かし、急な症状やけがに対応でき、地域に根ざした医療を提供したいと考えて 2022 年に開業しました。患者さんは自分の症状は何科を受診すればよいのか、また今すぐ受診すべきかどうかかわからないことが多いと思います。当院ではそのような症状に対応し、必要に応じて適切な診療科や医療機関に橋渡しする役割も担っていきたいと考えています。

標榜している科も多いため、風邪や胃腸炎、突き指や捻挫、頭部打撲など様々な症状をかかえた患者さんがいらっしゃいます。もちろんクリニックで治療まで完結させることができる場合がほとんどですが、中には入院が必要な肺炎や虫垂炎、手術が必要な骨折の方などがいらっしゃいます。



そのような時、東京高輪病院にまずは連絡させていただいております。地域連携室のスタッフの方や先生方に連絡するととてもスムーズに応需していただけて、患者さんだけでなく私達も安心することができます。救急の対応だけでなく、心雑音や浮腫などの慢性症状についても、クリニックでは調べきれない病態の精査も対応させていただいております。

なにかの症状が出た時に、「よくわからないけどとりあえず受診してみよう」と思っただけ、その中に隠れる重症な病気を見逃さないクリニックを目指して参ります。そして、だからこそ病診連携がなくてはなりません。

これからも何卒よろしくお願いいたします。

東京都港区高輪 2-16-10
TEL.03-6432-5224
<https://takanawa-m.jp/access/>



独立行政法人 地域医療機能推進機構

東京高輪病院

医療連携・患者支援センター

〒108-8606 東京都港区高輪 3 丁目 10 番 11 号

TEL: 03-3443-9576 FAX: 03-3443-9570 <https://takanawa.jcho.go.jp/>